



SNS はじめました!!

Social Networking Service

この度、当院のfacebookとinstagramのアカウントを開設しました。

当院の機能や取り組みをはじめ、地域生活支援サービスや施設の日常やイベント情報などを紹介していきます。また、皆様にお役に立てるような「健康と生きがいのある元気なまちづくり」のコラムやSDGsへの取り組み、お仕事の様子などをお伝えしていく予定です。

当院をより身近に感じ、ご利用いただけるよう発信してまいりますので、みなさまのフォローやいいねをお待ちしています♪

※個別のコメントやメッセージには対応できませんのでご了承ください。



リハビリテーション担当部長あいさつ 「リハビリテーションマインド」

リハビリテーション担当部長 平勝也

医療法人タピックは「健康と生きがいのある元気なまちづくり」をめざしています。

リハビリテーション部は回復期リハビリテーション病棟、精神科病棟、地域生活支援サービス、スポーツ、高次脳機能障害、依存症などの分野で「**こころ**」と「**からだ**」のリハビリテーションに力を入れています。

回復期リハビリテーション病棟ではクライアント（患者さん）の在宅復帰を支援し、地域で元気に過ごして頂くことを目標に日々奮闘しております。

精神科病棟では依存症・認知症・精神一般それぞれのリハビリテーションの特色を持った病棟を展開し、作業療法士が主に関わり在宅復帰を支援しております。

地域部門のリハビリテーションにも力を入れており、外来、訪問、通所のリハビリテーション、精神デイケア、高次脳デイケア、介護老人保健施設を展開しております。

スポーツの分野では、院内独自の認定制度であるタピックアスレチックトレーナーを育成し、マラソン大会やダイキンオーキッドレディースゴルフ大会等に医療チームのメンバーとして理学療法士や作業療法士を派遣しています。

沖縄県からは脳卒中などの後遺症である高次脳機能障害についての「高次脳機能障害拠点機関」、依存症に関しては「依存症専門医療機関」及び「依存症治療拠点機関」、認知症に関しては「認知症疾患医療センター」としてご指定いただき、当事者や医療従事者向けに情報発信や勉強会開催などを行っております。

今後も**リハビリテーションマインド**を持ち、地域を支えていきたいと思っております。



看護・介護統括部長あいさつ 「やわらかなまっすぐ」

看護・介護統括部長 金城悦子

看護・介護統括部の金城悦子と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

慣れない環境で、躓き転ばぬよう多くの方に支られて一步一步、ひとつひとつ業務をこなす毎日です。ひとつのことを咀嚼して、理解する時間がもてないまま、一気に駆け抜けた1ヶ月でした。

急性期病院の管理とは異なるホール運営に戸惑うことが多く、耳慣れない英単語が飛び交っている環境に慣れるにはもう少しの時間が必要そうです。

『**やわらかなまっすぐ**』という好きな言葉があります。

相手に合わせて大きくなったり、小さくなったり、いろんな形に変わったりしながら、まっすぐになって進んでいくという意味です。問題の大きさや形に合わせて対処できる柔軟性と、『やわらかなまっすぐ』の心と姿勢で対処できることが理想の管理者像です。

また、職員とのダイレクトコミュニケーションをとり『職員みんなで職場づくり』、『職員みんなで病院運営』という思いがもてる組織づくりを目指しています。

“共同・協同・協働”し、診療部門・看護部門の縦の関係と、技術部門・事務部門の横の関係を強め、相互支援が円滑に出来る強い医療チームのなかで看護展開ができ、看護の喜びを感じる場面を沢山つくりたいです。

また、互いの能力を伸ばしていくことを支援し合い、協力し合い、共に学び、力を結集させて取り組むことで「人」として成長できると考えています。それぞれの職業に誇りとやりがいを感じ、沖縄リハビリテーションセンター病院への愛着心が高められるような職場づくりに尽力できるよう努めて参ります。

まずは職員皆さんの事を知りたいので、可能な限り現場にお邪魔します。その際は、気軽に声をかけて下さい。（一度で名前が覚えられない年頃ですので、あしからず）



ケアサポートセット（おむつ製品）

看護・介護統括副部長 宮城 章子

入院生活を快適に過ごしてもらいたいとの思いから、**排泄ケア向上のため**、おむつ製品を変更いたしました。種類が豊富であるため、**クライアント（患者さん）の日常生活に合わせたおむつ**の選択が可能です。また吸収量が高く通気性がよいという特徴から1日3～4回の交換でむれることなく快適に過ごすことができます。さらにクライアント（患者さん）の夜間睡眠時間の確保もできることから**効果的な機能改善に向けたリハビリテーション介入**へ繋がっています。

口から食べるプロジェクト

リハビリテーション担当副部長 高野圭史

『多職種協働で**口から食べる幸せの回復を支援する**』というミッションを掲げ、6月から活動を開始しています。摂食・嚥下障害看護認定看護師の大城清貴先生（合同会社Comer）を月2回お招きして、実技を交えたミニレクチャーや病棟ラウンドを実施し、クライアント（患者さん）へ「口から食べる」支援を行っています。

アセスメントの視点と実践的なテクニックを体系的に学ぶ機会となっており、これからもクライアント（患者さん）の皆様へ、**食べる事の喜びの提供・支援**に力を入れていきます。



健康法人推進委員会

亀の里 管理部 伊禮翼

当院には職場の健康と安全確保を目的とした健康法人推進委員会があり、活動として職員健康診断やストレスチェック、生活習慣病予防などを行っております。

今年度は、いきいきと健康で働くことを目的として「ハッピースマイルアクション」と名付けたウォークフェスを実施し、1日平均**41,711**歩の記録を達成する職員もおりました。

6月には新館職員（地域事業所含む）と本館職員（元玉木病院）とでタピック野球交流試合を開催しました。平日頃から体を動かしている職員、体を動かしていない職員共に大きなケガ人もなく、野球を通して部署の垣根を越え、**One Team**になるというとても有意義な時間になりました。

8月には委員会の新たな取り組みとして、職員の健康促進とコミュニケーションの強化を目的に部活動の設立に向けたアンケートを全職員へ実施しました。バスケットやバレー、野球、筋トレ、アウトドア等といった活動が挙がっており、今後、乞うご期待です!!

今後も「健康と生きがいのある元気なまちづくり」の一つとして、職員の健康と生きがいにも取り組んでまいりたいと思っております。

